



化学者コミュニティの良識—論説について—

日本化学会会長 村井 眞二
論説委員会委員長 御園生 誠

化学・化学技術にかかわる問題をタイミングよくとりあげ、それについての化学者・化学技術者としての見解を「論説」の形で、機関誌、ホームページなどを通じて発信するため、論説委員会がスタートし、「化学と工業」平成17年2月号に第1回を掲載しました。論説は、会員さらには一般社会に、化学者コミュニティの判断を伝え、必要なら論議を通して、それぞれの課題に関して適切な共通認識に至ることを目的としています。

日本化学会が、率先して化学者コミュニティからの情報や意見に社会に対して発信すべきであるとの意見はかなり以前からありましたが、学会が具体的にどのような形で発信し責任を取るべきかで意見が分かれ、なかなか実現しませんでした。今後必要な手直しを加え、社会から受け入れられるような論説欄を目指して努力しますので、会員諸氏のご理解とご支援をお願いします。

「論説」は署名記事で、論説委員会で審議して発表しますが、文責は執筆した論説委員にあります。運営会議は、その内容が会員の良識を代表する重要な意見の一つとして認め掲載するものです。もちろん会員の意見は様々でありましょうし、論説が正しいという保障もありません。論説に対する異論反論は大いに歓迎するところで、論議を通じて、水準の高い適切な共通認識に到達することを期待しています。

論説委員

相澤益男 東京工業大学学長／北澤宏一 独立行政法人 科学技術振興機構理事／黒田玲子 東京大学教授、総合科学技術会議議員／澤本光男 京都大学教授／中村栄一 東京大学教授／細矢治夫 お茶の水女子大学名誉教授／安井 至 国際連合大学副学長／山辺正顕 独立行政法人 産業技術総合研究所研究所コーディネーター／渡辺 正 東京大学教授

2005年3月以降にご就任いただいた委員紹介

論説委員長



御園生 誠 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 理事長

〔経歴〕1961年東京大学工学部応用化学科卒業、66年同大学院博士課程単位取得退学、工学博士、同年同助手。講師、助教授を経て、83年教授。99年退官、工学院大学教授、2005年同退職、現職。04年日本化学会会長。日本化学会学術賞、学会賞。〔専門〕触媒化学、化学環境学。〔趣味〕かつてはスポーツ全般、今は観戦のみ。美術館見物。〔抱負〕化学の立場から、社会のための科学と技術のあり方を誠実に考えていきたい。未来がはなはだ不透明であるからこそ、冷静な科学的合理的判断が必要。無責任な技術至上論やご都合主義を排すことが科学・技術に携わるものの社会に対する倫理的責任ではないだろうか。

論説委員



今成 真 三菱化学(株) 顧問

〔経歴〕1968年東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程修了、同年三菱油化(株)(現三菱化学(株))入社、2000年執行役員横浜総合研究所長、02年常務執行役員・CTO、03年同上兼(株)三菱化学科学技術研究センター取締役社長、05年三菱化学(株)顧問。現在、現職のほか、日本化学会副会長、科学技術振興機構産学連携事業本部開発主監(プログラムディレクター)、化学技術戦略推進機構交流連携推進委員会委員長。88年日本化学会化学技術賞、89年触媒学会技術賞。〔専門〕触媒化学、石油化学。〔趣味〕スキューバダイビング、テニス、ゴルフ。〔抱負〕日本化学会は会員の約半数が産業界の人ですが、その割に日本化学会を利用することが少ない現状です。総合化学産業で長年、研究開発に携わってきたものとして、日本化学会に、少しでも産業界の皆様の関心を高められれば良いと思っています。



元村有希子 毎日新聞科学環境部記者

〔経歴〕1989年九州大学教育学部(心理学専攻)卒業、同年毎日新聞入社。西部本社本道部、下関支局、福岡総局などを経て2001年4月から現職。〔趣味〕下町歩き、古切手収集。〔抱負〕白状しますが、高校時代は国立系クラスで化学と数Ⅲを嫌々ながら勉強し「理科嫌い」になりました。ところが記者として17年ぶりに科学と向き合ってみたら、とても楽しかったのです。学校の科学教育に足りないものは、おそらく「人間くささ」、「わからない」という楽しみ、そして「魅力的に語る」技量です。マスメディアは、科学を等身大に、魅力的に伝えることのできる媒体ですが、現時点では十分な貢献ができていないといえます。一方で、市民の科学リテラシーの重要性は日々高まっています。科学と社会との橋渡し役として、微力ながらお手伝いできればと思います。



山野井昭雄 味の素株式会社 顧問

〔経歴〕1958年東京大学農学部農芸化学科卒業、同年味の素(株)、89年同社取締役、91年常務取締役、95年同社代表取締役専務、97年同社代表取締役副社長、2001年同社技術特別顧問、05年7月より現職。国立大学法人東京大学産学連携協議会アドバイザーボードほか。〔専門〕微生物化学、食品化学。〔趣味〕読書、ウォーキング、ゴルフ。〔抱負〕私は日本農芸化学会の副会長を担当していた当時、日本化学会の動向、就中その産学連携のあり方、強化策について学会長以下の幹部と我国化学系大手企業の会長、社長を含むトップとの話し合いの場の設定をはじめとして、産学共に真摯に考え行動している姿に接し、大変強く印象づけられると共に、農芸化学会ももっとこの方向を強める必要を感じ、理事会でその旨をアピールしたことが思い出されます。知識社会の到来の中で、日本化学会は化学系諸学会の中核として、化学を通じてこれからの新しい知の創造と活用と理解の増進の先導役を担うべき一つとして、その任は愈々重しを実感しています。